



KENMEI ACADEMY

2020年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

令和二年度(2020 年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

1, 本園の教育目標

—豊かな心，たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—

カトリックの精神に基づいた教育によって，神と人々の前で誠実に生き，人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に，子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し，愛する心，祈る心，感謝する心を養い，お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2, 本年度，重点的に取り組む目標・計画

のびのび元気に過ごし，自ら進んで自分でやってみる子ども

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1, 宗教教育 祈りとともに育つ。 ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	・友だちを大切にすることを日々の生活の中で絵本等を通して指導し，園行事などは友だちと試行錯誤しながら，一つのものを作り上げる喜びや楽しさを味わえるようにした。 ・毎日，朝や帰りの祈りなどに取り組み，自分の言葉で共同祈願を考え，祈りの集いに参加した。
2, 自主自立の保育 ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	・個々の様子を観察や記録をとり，適切な援助ができるように全職員で共通理解し，指導にあたった。 ・子ども一人ひとりが存分に興味のある活動に取り組むことができるように，各学年の発達段階に応じた教材を提供したことで，集中して取り組む姿勢が身に付き，達成感を味わう姿が見られた。
3, 未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行 ○子育て支援について積極的に取り組む。	・未就園児クラスでは子育てのサポートを行い，幼稚園と同じように生活を行うことで入園前の準備期間になるようにした。満3歳児クラス入園時には，保護者や子どもが安心して入園できるように導入保育を行う。

4, 英語教育を通して国際的関心を養う。 ○英語に親しみ、楽しみながら学んでいる。	・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように、個人のテキストを使って英単語に慣れるようにした。また、習った英単語や English song を発表会で保護者に披露する機会を設け、楽しく学ぶことができた。
5, 教員は資質を向上させるため、研鑽する。	・モンテッソーリ教育の園内研修を行い、2人1組になって教具の練習の機会を設けた。 ・毎月の職員会議では、子どもの様子を振り返り、教員としての観察力を高めている。
6, 保護者への対応 ○適切で正確な情報を発信する。	・新型コロナウイルス感染防止のため、月に1度保護者を対象に、情報交換をする機会を設けていたが集会や参観を実施できなかった。送迎の際には一人ひとりの保護者と話しをする機会を積極的にもったり、教育活動の写真を用いて保育のエピソードを伝え、保護者と共有できるようにした。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染防止のため、様々な教育活動の実施方法が見直しとなったが、感染対策を十分にとり、子どもたちが幼稚園生活の中で友だちと一緒に学び合い、充実した日々を過ごすことができるように保育内容のカリキュラムを立案したことで、子どもは自立し、充実感を味わう姿が見られた。

私達教員は、今後も子ども一人ひとりをよく観察し、それぞれの発達段階に即した個別の指導を行っていきたい。また、教職員の資質向上のため、様々な研修の機会を積極的に設け、自己研鑽していきたいと思う。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	・ 日常の生活や行事を通して子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育てる。 ・ ケース会議を設け、一人ひとりに応じた援助内容を共有し、全職員で指導にあたっていく。
保護者への対応	・ 毎学期に実施の幼稚園集会や、送迎時に保護者の方々とコミュニケーションをとる機会をこれからも積極的に設ける。
体力の増進	・ 室内や戸外での運動遊びの研究を行い、子ども達の発達段階に即した内容を取り入れ、体を動かす機会を作る。
宗教教育	・ おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、他者に思いやりの気持ちを育むようにする。 ・ 創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を具体的な事項として考え、実践する。

6 学校関係者の評価

別紙の通り

7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。

2020 年度 賢明学院小学校 学校評価 P D C A

学 校 名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 中原 道夫

2021 年 3 月 19 日 報告

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	宗教教育の実践	① 祈りを通じて神への畏敬の念を養う教育活動ができている。	① コロナ禍の中でも正しいお祈りの仕方の指導を徹底し、朝の放送でのお祈りや終わりのお祈りを心静かに行う。また、ミサや祈りの集いは中止しているが、神様への畏敬の念が持てるよう継続して指導する。	① 今年度正式な形で宗教行事を行うことができず、児童に十分に祈りの精神を十分に伝えることができていないようである。畏敬の念を持たせるまでには至らなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	① リヴィエ・ジュニアや各クラスの宗教委員の活動を活発にし、一人ひとりが神への畏敬の念を持つことができるような丁寧な指導を心がける。
		② 創立者について学び、帰属意識を高める教育活動ができている。	② 宗教の時間では、各学年でカリキュラムにそって系統的に理解を深める。「KENMEI GAKUIN HANDBOOK」を活用し、建学の精神や創立者について話す機会を増やす。	② 創立記念日や帰天日記念ミサを行うことができず、厳かな雰囲気の中での講話も実施できなかった。創立者の思いを伝えることが十分ではなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	② 創立者の思いを教員間でしっかり共有し、マリー・リヴィエへの尊敬の念を子どもたちにも伝えられるように、宗教や学活の時間を工夫するようにする。
		③ 感謝と奉仕の精神を培う取り組みが各行事に組み込まれている。	③ 日常の係活動や当番活動を重視し、奉仕の心で取り組むことができるよう指導する。募金活動や施設訪問等で児童会やリヴィエジュニアの活動を活発にし、奉仕の精神を育成する。	③ 日常の係活動や当番活動について創意工夫をして、行った。リヴィエ・ジュニアの施設訪問は実施することは社会情勢を鑑みて中止し、行事の DVD を見ていただいた。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	③ 次年度もこのコロナ禍が継続すると考えて各係活動や当番活動の内容を精査する。いかなる場合においても、奉仕の精神を育成することを心がける。
		④ 式典や行事を通じて宗教心を培う活動ができている。	④ 式典や行事ごとに高学年児童の役割を決め、低学年の良い模範として意欲的に取り組めるよう指導する。	④ 式典を行うことができず、高学年の児童の活躍する場を作ることができず、十分な活動ができなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 94%	④ 次年度は新型コロナウイルス感染予防を踏まえて、式典の進行等の見直しを行い、感染予防をしながらの式典・行事を運営する。
2	安心できる学級の実現	① 楽しい学校生活を送ることができるように児童への支援ができている。	① 毎日の朝の会・終わりの会の時間をきちんと確保し、落ち着いた雰囲気の中で実施する。また、その日に起きたトラブルについての解決に努める。	① 朝の会、終わりの会の時間を約 20 分確保したため、しっかりと話をする時間をとることができた。トラブルの解決にも機能している。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 97%	① 引き続き朝の会、終わりの会の時間をしっかり確保する。トラブルを未然に防ぐための気配り、目配りを実践する。
		② いじめ撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	② 日頃から児童一人ひとりをよく理解し、毎月のいじめアンケートから児童の実態を把握し、児童間の問題に対して迅速に対応し指導する。問題は、職員会議において全教職員で共有する。	② 毎月実施のいじめアンケートから実名の挙がった児童について、学年団で指導に取り組み、職員会議においても報告を行った。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 94%	② 引き続き毎月のアンケート実施とその分析、学年会・職員会議を通して、事後の対応をしっかりと取り組む。
		③ 衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。 食に対する感謝の心を養うことができている。	③ 配膳の仕方、身なりを検討し、8 月 24 日より給食エプロンを導入し、昼食指導を行う。また、食べ物を大切にす態度、作ってくれた人への感謝する気持ちと残食を減らす指導をする。保護者へはアンケート調査を実施し、その結果を踏まえメニュー等を改善する。	③ 年度途中の取り組みであったが、普段の昼食だけでなく、10 月実施の宿泊研修にも利用し、活用した。 2 年生が給食に従事する方々へ感謝の手紙を送った。とても感謝された。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 93%	③ 普段の昼食時、宿泊研修の昼食時のエプロン着用は次年度も継続して使用する。 給食については分掌担当者の連絡会を通して、メニュー改善にも取り組む。

3	教師の指導力向上と授業改善	① 国語・算数を中心とした授業の質の向上を目指して授業研究をしている。	① 前年度を踏襲し、教員が授業を1回以上公開して、教員同士が互いに授業力を高めることは、今後も継続しておこなう。新学習指導要領に即した教材研究と授業改善に取り組む。	① 公開授業を行うことはできたが、年度終わりに実施のケースがあった。互いの研鑽を深めるためにも2学期内には全員実施すべきであるとする。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 92%	① 各自の公開授業は12月までに終了することとする。教員同士の授業向上のための勉強期間を設ける。管理職による授業見学を行い、指導する。
		② 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化している。	② 宿題の提出の仕方やノートの点検の仕方を教員同士が共有し、差異が出ないようにする。更に学習習慣の基礎が身につく指導を検討し、実施する。	② 5年生のアンケートについては児童と保護者のアンケートに相違があった。原因を追求することが大切である。小学校は丁寧な指導が大切である。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 84%	② 一つ一つ丁寧に点検することを心がける。そのための時間確保を工夫する。今年度は実施していないが、学年懇談会等で保護者から意見を聞き、改善を加える。
		③ 実用的英語の力を向上させるために、朝のモジュールを活用している。	③ 今年度の取り組みの反省をもとに、英語のモジュール学習の内容や成果についてさらに検討し、英語の話す・聞く・書く・読む力の更なるレベルアップを図る。	③ モジュール教材の在り方を検討する。発声の制限もあったため、披露する場面もなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 76%	③ モジュールの内容を精査し、問題点や改善点を挙げ、次年度に生かせるようにする。各学年に応じた英語を使うイベントを行う。
		④ 情報機器を活用し、効果的な授業が展開している。	④ タブレットを活用した授業の取り組みプログラミング学習に対応した授業を前年以上にレベルアップさせ実施する。	④ iPadを活用した授業をおこなっているが、4月にオンライン授業のために台数が不足が生じた。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 85%	④ 現在使用可能なiPadを整備する。新規導入予定のタブレットPCの準備を進める。
		⑤ 新学習指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標達成に努めている。	⑤ 2020年度の新学習指導要領に対応し、今年度のカリキュラムの反省を活かし、更に各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内・外部研修に積極的に参加する。	⑤ 教科会議を定期的実施し、新学習指導要領に対応した授業を進めてきた。外部研修がことごとく中止になり、十分な研修はできなかった。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 99%	⑤ 次年度当初もコロナ禍を踏まえた教科指導を工夫する。新学習指導要領を踏まえ、内容の漏れのないことを担当者間で共有する。外部研修会へ積極的に参加させる。
		⑥ 児童自ら考え発言し、分かり易い言葉で伝え合うことができる授業が展開されている。	⑥ 自己と他者を認め、児童が失敗をしたり、間違えたりする発言があっても、互いに支え合う学級づくりに努める。	⑥ 学活等を通じて、いじめのないクラス作りを目指した。自分の気持ちを適切な言葉で伝えるための訓練が必要である。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 85%	⑥ 児童の言葉遣いに常に気をつけ、いじめにつながるような発言を見逃さない。その場できっちり指導する。
		⑦ 学級経営力向上のため、教室の整理整頓と朝の会・終わりの会の二点について指導力を高める。	⑦ 日頃から整理・整頓の指導に努め、朝の会・終わりの会については、時間の確保と内容が充実できるよう取り組む。	⑦ 各学年で朝の会、終わりの会の形式を決め、実践してきた。今年度の方法を振り返り、問題点をチェックする必要がある。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	⑦ 朝の会、終わりの会の形を定着させ、児童主体で行う。教員は児童が話しやすい雰囲気作りに努める。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活＜基本的習慣を特に充実させる＞	① 立ち止まって挨拶することの大切さを指導する。	① 朝や帰る時だけではなく、いつでもどこでも挨拶ができるよう指導する。児童会活動で挨拶運動が展開できるような取り組みを行う。	① 登校時はしっかりできているのだが、下校時になると、走って帰る児童がいる。児童会の取り組みの活性化が必要である。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 90%	① 毎日登校できることに感謝の気持ちを持ってマリア像等の前で一礼する心を育てる。児童会も主体となって、挨拶運動を行う。
		② 集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	② 教室からの移動時には、静かに並び静かに移動することを徹底して指導する。配布した「KENMEI GAKUIN HANDBOOK」を元に生活のルールを徹底させる。	② 低学年は徹底できている。学年によつてのばらつきが見られる。根気強く指導を続ける必要がある。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 89%	② なぜ沈黙移動なのかという原点に立ち返って、その意図を伝える。廊下に並ぶところから丁寧に教える。
		③ 通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③ 児童自身が交通安全を意識したり、公共交通機関利用の仕方について理解を深めたり、学級や集会での指導の工夫をする。「KENMEI GAKUIN HANDBOOK」を活用して、ルールの徹底を図る。	③ 例年に比べ、苦情の連絡は少なかったように思われるが、公共交通機関のマナーについてはまだまだ指導が必要である。普段からできていないことは宿泊研修等では徹底できない。	◆目標到達度 100% ◆実際到達度 94%	③ 公共交通機関の利用マナーについては他者への思いやりの気持ち、お先にどうぞの精神を児童に芽生えさせる指導を実施する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①各学年の保護者集会で精神や方針に関わる話を必ずしていく。 ②日頃から生徒との人間関係を作り，行事や作業などでその絆を深めるようにする。 ③やさしさや思いやりを持つことで学校生活が楽しいものになることを教えていく。 ④クラスだけでなく，クラブでの生徒間の小さな問題を早期に発見し解決していく。	①コロナ禍で保護者集会も少なく，全体で93％と昨年より2P（ポイント）下がった。特に中学は落ちが顕著だった。 ②全体で94％と年々向上し，昨年より4P向上した。学年では中3が96％と過去にない高い数字となった。 ③コロナ禍で大変な毎日を送る中，昨年と比べ4Pも向上し目標に近付いた。中でも中3の98％，高3の97％は特筆。 ④全体で94％と3P向上した。昨年この4項目が90％を超えて喜んだが，今年はさらに上昇し目標達成と言ってよい。	◆目標到達度 ①95％ ②95％ ③95％ ④95％ ◆実際到達度 ①93％ ②94％ ③94％ ④94％	①コロナ禍の影響はまだ受けるだろうが，少ない機会を有効に使い精神や方針を伝えていく。 ②行事の開催も未確定だけに，日常生活で人間関係を作り，絆を深めるよう指導する。 ③共通の苦難を経験したことにより，自分ファーストでない生き方を身につけさせる。 ④クラスだけでなくクラブでの生徒間のすれ違いを初期の段階で発見し解決していく。
2	相手への敬意，相手への思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①生徒会だけでなく，クラス単位での登校時の挨拶運動に取り組む。 ②生徒自身がルールやマナーを守る大切さに気付く機会を増やしていく。 ③教員自身が生徒の模範となるように自らの行動を意識しながら，統一して生徒の指導に当たる。	①保護者の評価が5P上がり90％になった。特に高校も90％と昨年より9P上昇，気持ちよい挨拶ができる学校になってきた。 ②生徒自身の評価は91％と目標を超えた。今年は高1が95％と高く，この学年の日常をよく表す数字となった。 ③保護者の評価は90％と5Pも上がった。中でも高1は94％と高く，②の生徒自身の評価と呼応する結果となった。教員自身の評価は10P以上大きく向上した項目もあった。。	◆目標到達度 ①90％ ②90％ ③90％ ◆実際到達度 ①90％ ②87％ ③90％	①近隣，地域の人たちにも挨拶できる生徒を育てていく。 ②ルールを守るはもちろんのこと，より高いマナーが身に付くよう指導する。 ③学年間クラス間で指導が数字にも表れるので，指導にばらつきがないよう確認し生徒に対応する。
3	学習における授業を第一とし，教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり，生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し，意欲的に学習に取り組んでいる。	①チャイムと共に生徒が集中して学習に向かうのが当たり前の状況を続けていく。 ②授業公開の新しい動きが出ているので，それを掛け声だけで終わらせず，お互い参観をして授業の向上を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観しあい，さらに工夫をして全員が取り組む。	①生徒の評価が95％，教員は98％と昨年と同じ評価になった。しっかりと徹底できるようになってきた。 ②プリントなど教材に対する生徒の評価は95％と昨年と同じ。教員の評価では板書の項目が14Pも向上し90％となったが，さらなる努力を続けたい。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は85％で微増。教員自身はコロナ禍でオンライン授業が続いた影響があるのか85％と11Pも下がってしまった。	◆目標到達度 ①95％ ②95％ ③90％ ◆実際到達度 ①97％ ②95％ ③85％	①最初だけでなく，授業時間中生徒が集中できるよう授業に魅力を持たせる。 ②授業公開の新しい動きさらに拡大し，お互い参観をして授業の向上を目指す。地道な前進を心がける。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観する機会を増やし，具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導，学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①全体に対してだけではなくクラス単位で進路の説明などをして，生徒が積極的に進路を考える環境を作る。 ②学年間のばらつきが少なくなったので，さらにそれををなくすためにも，教科担当者が協力して生徒の学力の向上を目指す。 ③新入試初年度としての的確な情報を集め，生徒たちの不安を解消しながら指導する。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは92％と4P伸びた。この数字は年々伸びており，特に高校ではどの学年も全体の評価を超える数字となった。 ②これも全体が92％と微増。高校は学年によるばらつきがなくどの学年も90％を超えた。昨年100％だった中3は今年も98％とどの学年よりも高かった。 ③新入試の中，公募推薦は順調だったが，その分一般入試は絞り込みがあり厳しかった。	◆目標到達度 ①90％ ②90％ ③国公立15名など ◆実際到達度 ①90％ ②92％ ③国公立 8名	①全体に対してだけではなくそのクラスに合った進路講演会などを実施して，生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②カリキュラムを変更して，大学受験に直結する科目の時間を増やし，実力を伸ばすよう指導する。 ③入試状況の変化をしっかりと見極め，生徒たちの不安を解消しながら指導する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	①その日に伝えることはその日に電話することを徹底させ、保護者との連絡を密にする。 ②引き続き、管理職、学年団、顧問団、スクールカウンセラーなどが緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③学年係を含めた学年団が意思の疎通を図り、まとまった姿を生徒たちに見せていき、協力して問題の解決を図る。	①学校からの連絡が確実になされているかの保護者の評価は90%と4P増。学年のばらつきが今年もあったが、差は縮まった。教員自身は昨年と同じく98%だった。 ②保護者からの相談についての対応は93%と3P増。昨年は高校が中学より9P低く対応に差が出たが、今年はほとんど差がなかった。コロナ禍での数字としては評価してよい。 ③教員同士の協力という点で生徒の評価は89%と6P増えた。学年による差もほとんどなく、コロナ禍でオンライン授業など教員が協力して取り組んだことが評価された。	◆目標到達度 ①90% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①90% ②93% ③89%	①その日に伝えることはその日に電話することをより徹底させ、保護者との連絡を密にする。 ②管理職、学年団、スクールカウンセラー、養護、学年主任会など緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③生徒たちが教員同士の一致をさらに実感できるよう、教員が同じ方向へベクトルを向け協力して問題の解決を図る。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①コロナ禍もあり例年以上にうまく人間関係を築けない生徒をサポートし、全員が笑顔で学校生活できるようにする。 ②言葉遣いの改善を毎日の生活でもっと意識し、お互い注意し合う。 ③学校に来れない生徒が出ないように担任中心に暖かく見守り、サポートしていく。	①良い友人関係を築いているかの評価は96%と増えた。今年は高校が中学より7P高く、中学はコロナ禍の休業が影響しているのかもしれない。その中で高1は98%と高い数字だった。 ②教員の自らの言葉遣いに対する評価が昨年76%と大きく落ち込んだが、今年は100%となった。しかし現状はそうではない。 ③居場所があるかは95%で微増。今年も高校の方が数値が高く、5Pの差があった。①と同じ傾向はコロナ禍の影響か。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①96%②100% ③95%	①今後もコロナ禍のために人間関係に制限がかかる中、生徒の小さな変化に気づきすぐに対応する。 ②自分たちが普通だと思っている言葉遣いを見直し、改善していく。 ③コロナにも負けず、生徒たちが安心できる学校作りを協力して取り組む。
7	生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。	①中止になった行事も多いが、行事における達成感を高めるために、さらに生徒主導で作り上げていく。 ②実践的なボランティア活動を教員が提供するところから始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動につなげる。 ③週5日制になるので再度クラブの規定を見直し、活発なクラブがより生き生きと活動できるよう工夫していく。	①生徒自身の評価は94%と微増。行事のほとんどが中止になったので、生徒は日常の活動を評価したのであろう。中でも中3が100%で、この学年は昨年もそうだった。 ②81%と5P増えたが、今年も他の項目と比べると数値としては低い。これも毎年そうだが、学年によるばらつきもある。ボランティア活動の取り組みは今後も考えていかねばならない。 ③クラブ活動に対する保護者の評価は86%で7P増えた。コロナ禍の影響でクラブ活動も大きく制限されたが、数字は上がった。中学と高校を比べると、中学が4P高かった。	◆目標到達度 ①95% ②85% ③85% ◆実際到達度 ①94% ②81% ③86%	①今年こそ体育大会、秋麗祭、クリスマスブローなどの行事を実施し、生徒主導で作り上げていく。 ②実践的なボランティア活動を教員が共に始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動へつなげる。 ③限られた時間内で生き生きと充実したクラブ活動ができるように、活動を見直し工夫していく。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。 ③学院全体の教育が系統的行われている。	①教務進路連絡会議が中心となり具体的な方策を示し、準備を進める。 ② オンライン授業も含め、授業の形を大きく変えて進化させることに全員で取り組み、新しい形を協力して作り出していく。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的行われるよう、カリキュラム作りをする。	①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は70%と大きくダウン。コロナ禍の影響をまともに受けた数値となった。 ②授業の内容を改善しているという教員の評価は100%が続いたが、昨年は96%と下がった。今年は再度100%となり、全員が改善に取り組んだ。 ③今年も残念ながら、教科としての具体的な連携ができなかった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ◆実際到達度 ①70%②100%	①各教科で大学入学共通テストの分析を行い、それを授業に生かしていく。 ②オンライン授業で得たものを対面の授業にも生かし、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。 ③英語と宗教(道徳)の指導が系統的行われるよう、カリキュラム作りをする。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	個別懇談・三者懇談を計画的に行い教育活動の理解を深める 生活指導や進路指導などの情報については定期的に情報を配信する。(各分掌ごとの進路指導日よりなど) 学習サポートについては出席率を向上させるために出席目標を設定し、参加することで学力が向上させ進路結果へ繋げる。	肯定的評価が 87%であった、昨年より 5%増え建学の精神や教育方針などおおむね理解している。 ①38%②41%であった。昨年より 5%増えてはいるが、日ごろから生徒の個人の持つ特徴に従って生徒理解を深める。 肯定的評価が 90%であった。特別活動などの行事を通じて、思いやりを持った生徒の人格を望ましい方向へ導く。 昨年度と同様に肯定的評価が 78%であった。学び直しや習熟度授業など生徒のニーズに応え、満足度を高めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①87% ②79% ③90% ④78%	新入生については、教職員全員が入試相談の担当者となり、生徒・保護者の状況を把握するとともに、入学前から本校での学校生活に順応できるようにする。 個別相談と三者面談は計画的に行うことにより、学習進捗表、模試の結果などから単位の修得状況や学力を把握し生徒への学習指導へ繋げる。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髮・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	個々の生徒の考え方や感じ方が異なっているも、受容し生徒が心を開くよう指導する。 生徒の行動を理解するために入学前からの情報を活用し、家庭の事情や本人の体調なども考慮する。 人間関係による影響を理解し、見方、接し方、感情を敏感に感じとるよう心掛ける。	①30%②48% 肯定的評価が 78%であった。教職員自ら挨拶をはじめ、声掛けをしていく必要がある。 肯定的評価が 78%であり、昨年度より 13%増える結果となった。生徒に愛と信頼に基づく教育関係をさらに成立していく。 ①30%②53%であり、肯定的評価が 83%であった。昨年より微増しており年々生徒の意識や生活態度の向上が見られている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①78% ②85% ③83%	生徒指導面については、個別面談や入試相談を通じて、シートを作成しすべての教員が生徒の理解に努め、指導における統一を図る。 生徒の入学前からの状況を理解し、生徒指導面の自覚を促すなど粘り強く指導する。 生徒自身の自己受容、自己理解を一層促進させるよう指導する。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	スクーリングを通じて、生徒自身が努力するように指導方法を改善する。 外部の進路相談会などの参加機会を計画し、進路について検討させ目標設定が明確になるようシートを作成する。 英語検定の受験者数を増やし、上位級の合格生徒を輩出する。	①60%②28%であり、単位習得のためのスクーリングが厳粛に行われている様子が伺える。 昨年より、肯定的評価が 14%増える結果となった。映像機器を使用するなどスクーリング内容が充実した結果である。 英検に挑戦する生徒が増えており、学習に対する意識の向上が見られる。学習サポートに多くの生徒が出席し、進路結果へと結び付けたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②86% ③80%	スクーリングについて、生徒の学習意欲を高めるよう指導内容を充実する。 少人数や個別での指導を継続し、生徒の状況に応じた学習指導を行う。 英語検定についてはどの級の合格者も多数輩出させることにより、希望進路の実現に活用することへ位置付ける。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を实践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導，学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	通信制課程の進路結果について、生徒の進路希望と決定および進路選択の要因を分析する。 卒業生の状況報告会（ホームカミングデイ）を充実させて、在校生の意識を変え、個に応じた進路実現ができるよう意識を高める。	進路ワークシートなどを新たに実施し、生徒一人ひとりの進路希望実現を図った。肯定的評価は 8%増えた。 多くの生徒・保護者に進路説明会や進路講演会などの参加を促した。12%増やすことができたが更なる向上を目指したい。 肯定的評価は 65%となった。学習サポートへの出席が習慣化している生徒は希望進路の実現を果たすことができている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①73% ②62% ③65%	進路講演会・進路フェスタ・ホームカミングデイについて学年や大学・専門学校などの分野に応じた実施内容にするなどの充実を図る。 学力を向上させるためのレポート作成や大学に合格するための自学自習の方法など、進路選択の情報提供などの学習活動を支援する。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み，統一した指導ができている	新入学・転入学生については生徒・保護者の理解を深めるための面談結果を全教員が理解できるよう新たな生徒情報シートを作成する。 担任と保護者との連携に加えて kenmei.info は入学時に必ず登録させて綿密な連携を図り情報を共有する。	①38%②48%であり肯定的評価が 86%であった。生徒の情報については共通理解し、生徒理解をさらに深めていく。 肯定的評価が 85%であり、昨年より 13%上回る結果となった。統一した指導見解をもって、一丸となって指導していく。 肯定的評価が 80%であったが、年々減少している項目の一つであるため、この結果を分析し、教職員の意識を改善していく必要がある。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①86% ②85% ③80%	新入学・転入学生については生徒・保護者の理解を深めるための面談結果（生徒情報シート）を全教員が理解し、様々な背景をもつ生徒理解に努める。 kenmei.info を入学時に全員登録させて綿密な連携を図り学校・生徒・保護者で情報を共有する。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にするこまやかで温かい生徒対応をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	入学前の個別相談・入試相談などを通じて生徒の家庭環境や学習状況などを理解する。 面談にて得た情報については、教職員同士で共通理解を深めるために個別相談シートを改良する。 生徒の居場所づくりのために、教室などの環境の充実と生徒の内面を理解するための個別面談を行う。	入学者数が増える傾向にあるため、生徒の一人ひとりを理解し、指導を適時、適切に行う必要がある。 肯定的評価 74%であり、昨年より 5%増えた。生徒の望ましい成長のために、指導・支援の方法を研究していく。 肯定的評価は 69%であった。一昨年は 89%、昨年は 79%であり、年々減少している項目であり、通信制高校に通う生徒には重要としなければならない項目である。統一した指導が行われているか、生徒の成長を促す指導ができているかチェックをしていく必要がある。 生徒の居場所づくりのために、教職員の連携を深めていく。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②74% ③69%	入学前の個別相談・入試相談を全員を担当者とし、保護者や中学校の担任と連携し、生徒の生育歴や 環境などについて客観的事実を知り、家庭環境や学習状況などを理解する。 通信制課程独自の学習活動を通じて生徒の自己肯定感を高め、個別相談シートなどを活用し、生徒一人ひとりの存在を大切にする指導を行う。 共感的な人間関係を育成すること 教職員と生徒及び生徒同士が、 相互に共感的に理解し合う人間関係を育成する。
7	特別活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加している。 ②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き生きとしている。	特別活動においては、学年別の出席率や生徒の満足度などを分析する。 大学や専門学校訪問に加えて、職場訪問なども実施し、特別活動が学習活動の要となるようキャリア教育の視点としても活用できるように特別活動を実施する。 特別活動の参加率を向上させるための、事前指導や申込みについての改善を行う。	肯定的評価が 83%であり、昨年より 19%増える結果となった。実施の案内や申し込み方法を KENMEIinfo を活用するなど、事前指導や申し込み方法の改善の結果であると考える。 ボランティアについては、入学式・卒業式・学校説明会などの参加生徒の偏りがある。 肯定的評価が 80%であったが、保護者アンケートの「特別活動などの指導では、生徒を育てることに努めている」 肯定的評価は 100%の結果となった。より多くの生徒への学びを深めていくため内容を充実させたい。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①83% ②59% ③80%	キャリア教育の視点としての職業体験を強化する。 特別活動については、構成的グループエンカウンターなど自他理解が深まり、自他のよさに気付くことができる活動を取り入れる。 地域での活動を取り入れ、一人ひとりの社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育成する。 社会の実情に応じた活動内容を取り入れ、出席率の向上を図る。
8	大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くなされている。 ②新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している。 ③学院全体の教育が系統的行われている。	各分掌・教科などの研修会で得た知識・技術を共通理解できるよう各部会別の学内研修発表を行う。 通信制課程教育研修会や合同相談会などを通じて、他の通信制高校との関係性を深め賢明学院としての独自の教育を展開する。 社会に求められる通信制高校であるために、生徒指導意識や進路指導意識を高めるよう教職員全員で取り組む。	新型コロナウイルスの影響で、各分掌・教科の研修会がすべて中止となった。教員同士での生徒理解のミーティングなどを頻繁に行ってきた。 肯定的評価が 87%であり、昨年より 27%増加する結果となった。映像機器を利用するなどスクーリングの内容を充実させている結果である。 6 年目を迎えるにあたり、卒業生が社会人へと成長していくこととなる。卒業後に必要な力は何かを研究し、在校生の指導・実践が必要である。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①72% ②87% ③79%	各分掌・教科などの研修会で得た知識・技術を共通理解できるよう各部会別の学内研修発表を行う。 大阪府認可の通信制高校グループとの定期的な活動を通じて、関係性を深め賢明学院としての独自の教育を展開する。 社会において必要とされる通信制高校を目指し、生徒・保護者から信頼を高める教育活動を教職員全員で取り組む。

2020年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

<評価委員名>

委員名	小上 廣之（大学参与）	嶋田 豪洋（専門学校校長）	藤木 利典（卒業生）	久保 善見（保護者）
-----	-------------	---------------	------------	------------

<委員会実施日>

実施日	第1回（中止）5月23日（土）	第2回8月28日（金）	第3回2月6日（土）	提出日4月30日（金）
-----	-----------------	-------------	------------	-------------

<評価の概要>

幼稚園	・2020年度の教育目標である混合保育・モンテッソーリ教育・英語教育は、コロナ禍によって実施できなかった混合保育を除き、一定の評価が得られたように感じるが、同時に教員へのモンテッソーリ研修や、英語のワークブックの使用方法など、教育の根幹部分に不十分な箇所が報告されている。いずれも教員個人が対応しきれない問題ではないので、園全体で協力し、より良い環境を整える努力を継続して頂きたい。
小学校	・いじめ問題に対し、教員個人ではなく学校として取り組む姿勢が評価できる。 ・オンライン授業のためのタブレットPCが不足するなど、中高に比べて対応が後手に回っている。ICT教育機器はもはや学校にとって不可欠なものであるため、早急な対応が望まれる。 ・モジュール学習に対する肯定的評価が低いと、その原因と対策が示されておらず、「これから問題を精査する」と記載されている。こちらもICTと同じく対応が後手である。子どもの学力に直結する案件なので、早急に対応して頂きたい。
中高	・「主体的、対話的な深い学び」についての教員評価が10ポイント以上下落した。これについて学校は、コロナ禍によるオンライン授業導入が原因だと分析している。当面の間、この傾向は避けては通れないと仮定すると、オンライン授業の質の向上が、授業の質向上の為に重要な鍵になるだろう。一方、これに関する生徒の肯定的評価が昨年と同じ85%であることを鑑みると、オンライン授業でもライブ授業と同じレベルが維持できていると言える。教員の肯定的評価の下落は、教員自身の授業改善に対する意欲の表れであるとも言えるので、次年度の飛躍に期待したい。
通信制	・「新しい取り組みがなされ、スクーリングや進路指導が進化している」という項目の肯定的評価が、昨年度の60%から87%へ大幅に上昇した事は、高く評価できる。この原因はおそらく、生徒や教員の日頃の努力によって、卒業生が慶應義塾大学や同志社大学、関西学院大学のような難関大学に合格したことが評価されたのだろうと推測できる。引き続き生徒の希望進路実現のため、ご尽力願いたい。
総括	・関西学院大学特進サイエンスコースや、関学理数コースは、大変夢のあるコースである。これを梃に、幼小中高そして大学の連携を図って頂きたい。特に、AP科目については、他校にはない賢明学院の強みであるだけでなく、今後の学校教育のあり様を示す試金石ともなり得る取り組みだと推察されるので、今後の賢明学院の教育に大きな期待を持っている。